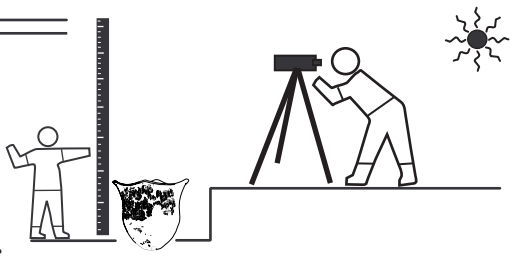
いわかげ

— No. 106 — 2005, 8 , 26

広島大学文学研究科考古学研究室・
帝釈峡遺跡群発掘調査室

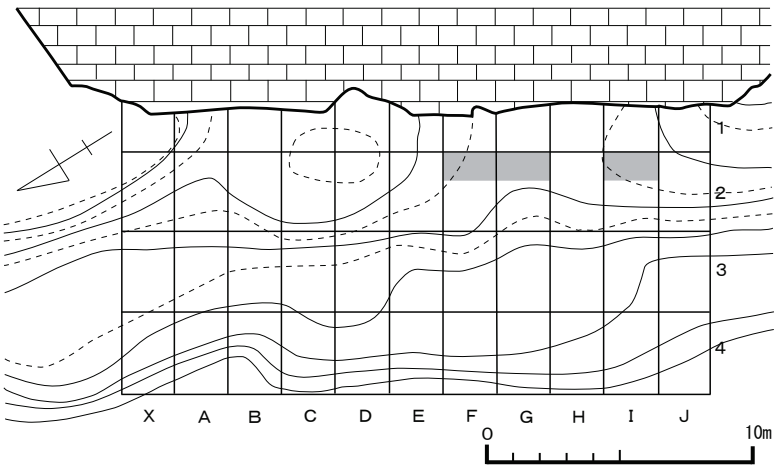


2005 年度帝釈峡遺跡群発掘調査　Ⅱ期（８月 18 日～ 25 日）の成果

久代東山岩陰遺跡（くしろひがしやまいわかげいせき）

今年度の調査目標は、まだ調査されていなかったＦ・Ｇ・Ｉ区の調査を部分的に行い、遺跡全体の土砂や層の堆積の様子などを確認することです。本遺跡は今年度で調査が終了する予定なので、調査されていなかった調査区を調べることで遺跡の全体像や性格、つまり遺跡での居住の様子を把握したその後、どのようにして土砂が堆積・流入したかなどを確認します。

Ⅱ期の前半はＩ期に引き続きＧ－２区とＩ－２区の発掘調査を行い、Ｇ－２区の調査が終了してからＦ－２区の調査を行いました。今回、出土している遺物は、弥生、縄文時代の土器片が数十点、Ｆ－２区から石鏃（せきぞく：矢の先につけるやじり）が出土しています。また、今期の調査では、Ｇ、Ｆ区にまたがった、土坑と思われる遺構を検出しました。土坑内から弥生時代の土器片が出土しました。ただし、今期は土坑の詳しい調査をしていないので、明確に弥生時代の遺構であるとはいえません。Ⅲ期でこの土坑の全容が解明できればと思っています。これ以外にもＧ、Ｆ区から、それぞれ一つずつ柱穴と思われる遺構も見



久代東山岩陰遺跡調査区配置図
（網掛け部がⅡ期の調査区）

つかっています。すぐ近くにある岩壁に木をたてかけて居住空間を形成していたと思われます。

今期では、G、Ⅰ区の調査がほぼ終了しました。Ⅲ期は、遺構が検出されたＦ区を中心に調査をおこなって、東山岩陰遺跡の調査を終了させる予定です。今年が最後の調査なので、興味のある方はぜひ見学にいらしてください。

（白根明樹）

コラム１　子供との共同発掘作業を通して

去年に引き続き、油木町の子供たちと発掘や水洗選別作業（掘った土を水洗いして、遺物を探す作業）をする機会を得られた僕は、幸せ者だと思います。なぜなら、子供たちの純粋に『昔のものを自分の手で見つけ出したい』という姿勢が、僕が考古学を学びたいと思い始めた時の気持ちを思い起こさせてくれるからです。僕は将来について考えたとき、最初から考古学をやりたいとは思っていませんでした。最初は、中学校の修学旅行で金閣や法隆寺を見てその威容に圧倒され、古代建築に興味を持つようになりました。それが変わったのは、考古学なら、決して目立つことや派手な物だけではないけれど、『ホンモノ』の資料を『自ら見つけ出せる』ことを知ったからです。去年、そして今年発掘に参加してくれた子供たちの内、何人が考古学や歴史学に興味を抱いてくれたかは分かりません。しかし、興味の対象が何であれ、小さい頃にやりたいと思ったことを大学でも引き続き勉強ができる幸せを噛み締める今日この頃です。そして、初心忘るべからずの精神を思うのです。

発掘体験の様子

最後になりましたが、冷たくおいしいジュース、どうもありがと

うございました。

（江副陽祐）

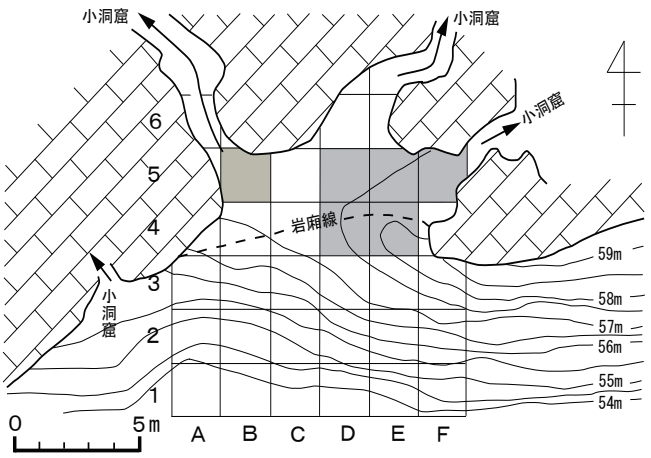
コラム２　考古学のロマンは肉体労働から？

私が広島大学で進路に迷っているときに「考古学コース」を勧めてくれた人がいる。その人曰く“考古学は古代のロマンだ” この言葉にひき付けられて考古学を専攻することになった。実習は石膏細工からはじまって須恵器の復元までは格好よいものであったことから、私の夢を満足させてくれるものであった。ところが帝釈峡遺跡群の発掘調査に参加して驚いた。毎日が山登りと肉体労働なのである。そのうえ蚊には咬まれるし、夕立にはびしょ濡れになるのである。“考古学は古代のロマン” とは程遠いのである。ところが、発掘を開始して５日目ごろから発掘そのものが楽しくなるのである。その変化は説明できないが、肉体労働に慣れてくることと発掘した者にしか味わうことのできない遺物に対する愛着かもしれない。“これは私が発掘した遺物だ” といえるような物を掘り当てたいと思い、毎日を老骨（実をいうと私は６４歳の大学２年生である）に鞭打ちロマンを求めているのである。

（吉武幹雄）

帝釈大風呂洞窟遺跡（たいしゃくおおぶろどうくついせき）

大風呂洞窟遺跡では、Ⅰ期に引き続き、第３層（縄文時代後期・前期）を目指して調査を行っています。現在、掘り進めている第２層は厚さ 15 ～ 40㎝の黒褐色土層で、南側が厚く堆積しています。時代でいえば主に古代・中世に利用されていたと考えらており、当時の須恵器や土師質の土鍋片などが出土しています。今期は、1039年に初鋳造された宋銭も出てきました。さらに、今期に調査をしているＤ－５区やＥ－５区からは、昔の人が焚き火をした跡である焼土も見つかっていて、礫が集中しているＤ－５区の南側からは、地面に穴を掘った土坑も検出し



帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図

（網掛け部がⅡ期の調査区）

ています。現在この土坑の全体像を把握するべく作業を進めています。先に述べたように、第２層は南側ほど厚くなっています。同じ時代の面を掘り下げるために、土坑の検出と同時進行でＤ－４区とＥ－４区を、他の区の３層の面と同じくらいになるまで掘り下げていきます。また、遺跡にはベルトという各調査区の土層の状況を確認するために掘らずに残している土の壁があるのですが、東西にのびているベルトを取り外して、土坑や焼土の広がりかたを確かめます。

Ⅱ期でこのような作業をすることで、古代・中世における空間の使われ方がわかります。一言で２層といっていも、炉跡などの遺構は何箇所も見つかっており、一箇所でも上下に重なっているものもあります。このため、それぞれの時期の炉跡などの配置がどうなっているか、慎重に調査を進めています。

雨の影響などで予定通りにいかないこともありますが、３層までは本当にあと少しです。近くを通りかかることがありましたらぜひ見学にいらしてください。

（斉藤礼）

コラム３　大風呂の山登り

大風呂洞窟遺跡は山の中腹あたりに位置しているため、調査をするためにまず山の斜面を登っていかなくてはならない。しかし、この山登りが曲者で、かなりの傾斜があり、道も曲がりくねっているため登るのに時間がかかり、現場に着く頃にはもうかなりの体力を使ってしまう。僕は今回初めて大風呂遺跡に行くことになったので、大風呂に行ったことがある人から話でしかその道程などについて聞いておらず、「そんなにきついのか？」と疑問に思っていた。だが、いざ登ってみると本当にきつく、現場に着いた時に息は切れているし体は汗だくで、まだ調査も始まってないのに休憩したいと思ってしまった。みんなの言っていたきついという言葉が否応なしに実感でき、自分の考えが甘かったとしみじみ思わされた。昼休みなどで一度下まで降りてしまうと、もう一度登ることにげんなりしてしまう自分がいる。しかし、最近はそこをプラス思考に変えて、「登れば登っただけ体力がつくし、発掘調査にも生かせる！」と考え、弱気になる自分を奮い立たせる。「発掘調査だけじゃなく、そこまでの道程、宿舎での生活全てが自分のちからになる」と。そして今日も僕は大風呂へ登る。

（寺西宏展）

コラム４　帝釈大風呂洞窟遺跡岩陰探検記

大風呂洞窟遺跡には、現在発掘している岩陰部分のさらに奥側に小洞が三ヶ所あります。この前、発掘のお昼休みにその小洞のうちの、東側の洞窟に探検に行きました。洞窟に入るまでは、中が

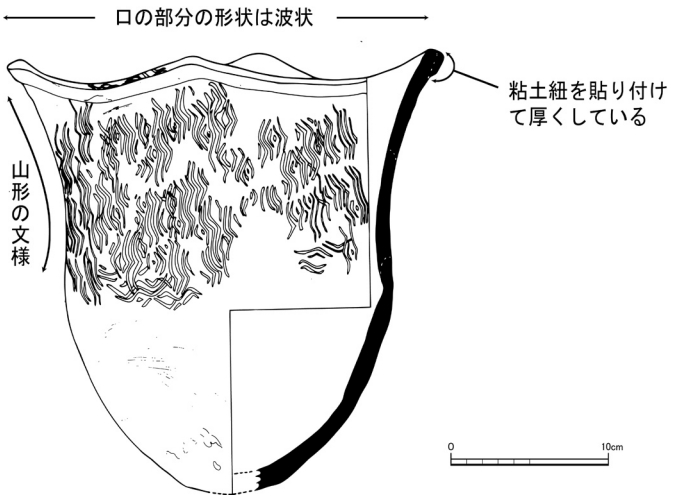
どんな風になっているのか楽しみでしたが、暗いところがあまり好きじゃないので、少し怖くもありました。ヘルメットをかぶって、軍手をはめて、懐中電灯を持って出発です。洞窟の入り口は、這っていかなければならないほど狭いのですが、少し行くと人が立てるくらいの高さになります。そこをさらに奥へまた這っていくと、ぽっかり広くなっているところがあって、上を見ると、天井にはコウモリが一匹ぶら下がっていました。コウモリはまだ眠かったみたいで、懐中電灯で照らしたら迷惑そうでした。コウモリが群れでいなくてよかったです。洞窟内は少し肌寒いくらいで、ひんやりとしていました。夏場の暑さをしのぐにかなり良く、昔の人も、ここで涼んでいたかもしれないなぁと思いました。思ったよりも居心地の良かった洞窟を満喫することができました。帝釈峡周辺には石灰岩が浸食されて形成された洞窟・岩陰が多数存在するので、今度はほかの洞窟にも探検に行きたいです。

（真部明子）

帝釈峡遺跡群の遺物あれこれ

今回紹介する遺物は、神石高原町（旧豊松村）の豊松堂面洞窟遺跡の第12層から出土した土器です。この土器は高さ（復元）25.8㎝、口縁部径（復元）27.9㎝で、丸底の土器です。土器の上半分には縦に山形の文様や、山形の文様を組み合わせたり、山形の間に点をつけたりしています。これらの文様は山形に作った型を押し当てて、その型を回転させることによって文様をつけていると考えられています。縄文時代には様々な文様がありますが、この土器はその中でもユニークな文様を持っています。この土器は縄文時代早期の後半（今から約7,000～6,000年前）頃のものです。（引用・参考文献　潮見浩ほか　1983『帝釈峡遺跡群発掘調査室年報VI』）

（加藤徹）



豊松堂面遺跡出土の縄文土器

人物往来

(8 月 17 日～ 25 日)

京都大学人間・環境学研究科大学院生　納屋内さん（M１生）

(8 月 18 日～ 25 日)

京都大学人間・環境学研究科大学院生　石丸恵利子さん（D４生）

参加者名簿（Ⅱ期　8 月 17 日～ 25 日）

広島大学大学院文学研究科	教授	古瀬清秀
〃	助教授	竹広文明
〃	助教授	野島永
〃	大学院生	加藤徹（D３生）、石貫弘泰・今井千佳子・塩冶琢磨・順田洋一・須崎瀬里奈・永田千織（以上M１生）
広島大学文学部学部生		伊藤祐介・江副陽祐・斉藤礼・白根明樹・津田真琴・寺西宏展（以上３年生） 実盛良彦・田中慎一・星孝明・真部明子・吉武幹雄（以上２年生）

陣中見舞い

弥生食堂藤井さん　野菜

伊藤さん　缶コーヒー

石丸さん　ビール１箱

田嶋さん　ビール１箱、野菜

遠藤さん　竹屋饅頭

明賀さん　すいか

牧野さん　ビール、蛸壺

神石高原町教育委員会　ビール２箱

川越先生　ビール

古瀬先生　ビール１箱

ありがとうございました。

本年度は残り１期間となりましたが、８月 27 日～９月３日まで、東山・大風呂の両遺跡で発掘調査を行う予定です。お気軽に遺跡まで見学に来てください。遺跡の見学には、山登りおよび川を渡れる服装でお越し下さい。

（編集　石貫・加藤）